

B 世界の紛争に関する次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

世界の紛争は、特定の国家領域内部かその一部の地域にみられる国内紛争と複数の国家領域におよぶ国際紛争に大別することができる。また、紛争の要因は、a 民族的対立、政治的対立、宗教的対立など、多様である。

国内紛争は、分離独立運動や悲惨な内戦・抗争などに至ることもある。① [(ア) エドモントン (イ) トロント (ウ) バンクーバー (エ) モントリオール)] などの都市があるカナダのケベック州では、フランス系住民による分離独立や自治権の拡大を求める運動が行われてきた。また、② [(ア) アゼルバイジャン (イ) アルメニア (ウ) グルジア (エ) ロシア)] の南オセチア地方では、少数民族による隣接国への帰属を求める動きも活発化してきている。こうした分離独立の動きに対しては、例えばスペインのように、政府が紛争地域に対して一定の自治を保証することで問題の解決を求めてきた国々もみられる。アフリカでは民族対立による悲惨な内戦・抗争が繰り返されてきた。1990年代以降も各地で民族紛争が頻発し、③ [(ア) アンゴラ (イ) ケニア (ウ) ブルンジ (エ) マラウイ)] では、ツチ族とフツ族との抗争により多くの人々が殺戮され、多数の難民が周辺国に流入する事態となった。また、1945年に生まれた旧ユーゴスラビアの分離・分裂による数カ国の独立国家の形成に至る過程では、b 悲惨な民族的抑圧・対立が発生することとなった。

国際紛争としては国境や領土・領海に関する国家間の紛争があげられる。④ [(ア) アッサム (イ) カシミール (ウ) タミル (エ) パンジャブ)] 地方の帰属をめぐる争いは、インドとパキスタンの両国間で紛争が繰り返されてきた。また、水産資源や海底の鉱産資源が豊富な南シナ海の南沙諸島では、c 数カ国がその領有を主張して、争いが続いている。そのほか、世界では、さまざまな歴史的経緯や政治的・イデオロギイ的対立などを背景として、多様な国際紛争や民族的抑圧の問題などがみられてきた。東西冷戦下にあつて、d アメリカとソ連の両軍事大国の傘下にあった地域間でのイデオロギイ対立をもとにした国際紛争が繰り返されてきた。また、クルディスタンと呼ばれる山岳地域を居住地域としてきたクルド人は、植民地からの独立に至る過程で、e その居住地を三つの国に分断され、その後それぞれの国からしばしば民族的迫害を受けることとなった。

問1 文中の①～④に関して、[] の(ア)～(エ)のうちからそれぞれ最も適当な語句を一つずつ選び、記号で答えよ。

問2 下線部 a に関して、スリランカの国家を二分する民族的対立は同時に宗教的対立をも反映している。民族とその宗教の組み合わせとして最も適当な組み合わせを、次の(ア)～(エ)のうちから一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) シンハリ人=仏教 (イ) シンハリ人=ヒンドゥー教
(ウ) タミル人=シーク教 (エ) タミル人=イスラム教

問3 下線部bに関して、その一つとしてコソボ紛争があげられる。コソボ紛争で対立した住民の組み合わせとして最も適当な組み合わせを、次の(ア)~(ウ)のうちから一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) アルバニア系住民とセルビア系住民
(イ) アルバニア系住民とクロアチア系住民
(ウ) クロアチア系住民とセルビア系住民

問4 下線部cに関して、その領有を争う当事国ではない国名を、次の(ア)~(エ)のうちから一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) 中国 (イ) インドネシア (ウ) フィリピン (エ) ベトナム

問5 下線部dに示した性格を有する国際紛争として最も適当なものを、次の(ア)~(エ)のうちから一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) イラン・イラク戦争 (イ) ベトナム戦争 (ウ) ボーア戦争
(エ) 中東戦争

問6 下線部eに関して、クルド人居住地区をその国土の一部としている国に該当しない国名を、次の(ア)~(エ)のうちから一つ選び、記号で答えよ。

- (ア) アフガニスタン (イ) イラク (ウ) イラン (エ) トルコ